

経済産業委員会

令和3年9月1日（水）

午前10時13分～午前10時48分

議会第3会議室

【出席委員】千綿正明委員長、宮崎 健副委員長、御厨洋行委員、山下伸二委員、
野中宣明委員、山口弘展委員、川原田裕明委員、江頭弘美委員

【欠席委員】重松 徹委員

【委員外議員】なし

【執行部出席者】

・経済部 梅崎経済部長
ほか、関係職員

【案件】

・付託議案について

○千綿委員長

皆さんおはようございます。それでは、経済産業委員会を開催したいと思います。

私ごとで遅れたことをおわび申し上げたいと思います。山下伸二委員、すみません、御迷惑かけます。なるべく早く終わりたいなどは思っていますが、今日は重松委員が欠席という連絡が入っていますので、御了承をお願いしたいと思います。

それでは、初めに先日の決算議案審査で3点の資料請求があり、経済部2から経済部4としてサイドブックに掲載されております。これらの資料について順に説明を求めたいと思います。

◎補足説明資料 経済部2 説明

○千綿委員長

区切っていきましょかね。

では、この件の資料請求は誰だったかね。

○山下伸二委員

おとこの決算審査のときも話したんですけれども、いろんなテレワークのための対策をされているので、これはこれとして、していただきながら、今後の中で、こういったセミナーとかいろんな取組によってどれぐらい佐賀市内でもテレワークが進んだのかというのは、ぜひ調査していただいて、いずれかの時点でまた報告していただくようお願いいたします。要望しておきます。

○千綿委員長

ほかにいいですか。

1点だけ。例えば、これは告知すると――広報とかはどうやってしているんですか。中

小企業団体連合会とかにということでもいいのかな。

○中野工業振興課長

このセミナーの広報につきましては、佐賀商工会議所とか南商工会、北商工会とか、あと産業支援相談室とか、中小企業診断協会の関係企業と佐賀市役所、佐賀駅バスセンター等にチラシを配布しております。以上です。

○千綿委員長

ありがとうございます。

それでは、次に行きたいと思います。3のほうですね。

◎補足説明資料 経済部3 説明

○千綿委員長

何か御質問等は。

○御厨委員

18番のSNSなんですけれども、13万2,000円と上がっておりますけれども、これは委託料で13万2,000円かかっているのでしょうか、それともInstagramの中で広告を打つことができると思うので、その広告費が13万2,000円でしょうか。——あれ、間違えました。

○千綿委員長

決算3よ。

○御厨委員

ごめんなさい、すみません。1個間違っていました。

○山口委員

昨年度も同じ資料を出していただきまして、新規事業等で幾つか増えたりして、中身の数字の金額のところを少し私も比べてみましたが、先ほど御説明があったように、規模縮小等があれば、その分減額したりということで適正にやられているなというのは感じております。

例えばなんです、17番の今度新規に出されたパンフレット制作業務というのは、これはソフトの部分を委託されているのか、製本とかも含めて、その金額で一括して発注をされているのか、いかがでしょうか。

○古賀観光振興課長

内容の監修を観光協会が行っておりまして、その分を含めて、全体のレイアウトから全て制作のほうまで、印刷のほうまで全て観光協会が一括してお願いしております。

○千綿委員長

よろしいですか。ほかには。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それでは、次をお願いします。

◎補足説明資料 経済部4 説明

○千綿委員長

それでは、ただいまから御意見とか御質問。

○山下伸二委員

経済部関係でいろんな取組されているんですけども、例えば、秘書課は秘書課とか、いろんなところで、こういったPRされていますよね、部署でですね。そういったところの連携というか、例えば経済部としてはこういうターゲットなので主に紙媒体だとか、そういったものに力を置こうとか、ここの部署はSNSとかそういったものに置こうとか、そういった全庁的な横断的な連携みたいなものがまず図られているのかどうか、ちょっとそこを確認させてください。

○古賀観光振興課長

特に我々と同様の業務をしている、秘書課の広報的な業務が同じようなものがございます。秘書課のシティプロモーションのほうで取り組まれておりますのは、佐賀市のイメージアップということを主に取り組まれております。それから、全庁的な取組であれば、例えば移住とか、この間からありました、そういったものに関してとか、観光だけではなくて、佐賀市全体に係るものでのPRをされています。もちろん、ぬる湯とか、温泉に関する佐賀の観光に関するものもございまして、そういったものに関しては積極的に観光とも連携を取りまして、我々のPRのときに、そういったものを同時にPRしていくというような取組を行うようにしております。

○千綿委員長

だから、今の質問の趣旨は、ターゲットを決めるとか、いろいろ紙媒体がこういう利点があるからここに決めているという、その方針が全庁的にあるのかということなんです。

○古賀観光振興課長

確かに今御指摘ありましたように、近年、ネットとかSNSとか、そういったものの重要性が高まっておりまして、これまでの紙媒体のみの広報ではなかなか不十分であるという部分が出てきているのは認識しております。その相手によって、対象によっていろいろ我々も考えるわけですけども、全庁的にそういったものを今——ここはネットをやる、ここは紙媒体をやるという分け方はしていません。今言いましたように、広報する相手対象によって、ここはネットでしたほうがいいんじゃないかとか、ここは時期的にネットがいいとかここは紙媒体のほうがいいのか、特に高齢者とかにも周知しなければならない場合はバランスよく、若い人たち向け、それからそれじゃない人たち向けとかいう形で広報というのをやっておりますので、特に部署で分けるということはありません。

○山下伸二委員

それぞれの部署でやられることは当然やってもらわなくちゃいけないんですけど、例えば、何でしたっけ、最高情報責任者でしたっけ、副市長か何かは今されていますよね。そ

ういったものを庁内の例えば情報システム課だけじゃなくて、全体的な情報というものをどういう媒体を使っていくかというのを、やっぱりもう全庁的な検討していく必要があるんじゃないかな。特に今から佐賀駅バスセンターとか、まちなかにも情報収集のためのターミナルとか入れられるわけですよ。そういったところと連携していくためには、そういったことも考えて、紙媒体ももちろん必要なんですけど、新たな媒体というものを全体的に取り組んでいく必要があるというふうに思っていますが、その辺についての考えはいかがでしょうか。

○古賀観光振興課長

さっき言いましたけれども、確かにこれからネットのほうが経費的にも、それからスピードとか、そういったものについても非常に有効であるということは我々認識しております。そういったもののボリュームを増やしていこうという認識を持って今取り組んでおります。

先ほど説明しました中で1件だけ、18番にSNSを活用した佐賀市観光PR業務というのがございました。これは、内容はインスタグラマーと言いまして、フォロワーをたくさん持ったインスタグラマーの方に、業者を通じて委託して、佐賀市歴史民俗館のPRをしていただいたものです。我々も実験的な部分もあったんですが、結果、約5万5,000件を超えるアクセスというか、閲覧があったということで、ちょっと手応えも感じておりますので、こういったものを今後増やしていこうというふうには考えております。

○千綿委員長

1点だけ、さっきの延長なんだけど、要するに全庁的に広報媒体の一覧表があって、例えばこの媒体についてはここが強いとか、メリット・デメリット当然あると思うんですね。そのようなノウハウというのは、本来秘書課が戦略的に考えてやらないと、例えば経済部で分かっている媒体があるかもしれないですか。そういうのはないんですか。だから、要は、先ほど山下伸二委員言われたように、全庁的に、例えば今回ここに載っているMOTEMOTEの購読数はこのくらいの年齢層が多いですよとか、ぷらざはこんなのが多いですよ、佐賀新聞はこういう利点がありますよ、デメリットはこうですよというのがないと、選ぶ選択肢が全庁的にないわけでしょう。経済部だけじゃなくて、ほかのところの広報もやるわけだから、本来そのマニュアルがあって、それならここにしようという話にならないとおかしいわけですよ。そういうのは作られていないんでしょう、全庁的に。

○古賀観光振興課長

今のところ、御指摘いただいた分について、そういったものがはっきりあるわけではございません。ただ、御指摘のとおり、今後はそういったものが必要になってくるとも思いますので、関係部署と連携しながら研究をさせていただきたいと思っております。

○江頭委員

今の課長の、山下伸二委員の質問での答弁聞いていると、どう見たって、対象者というのは高年齢的な形にしか見ていないにしか聞こえないんですよ。というのは、委員長も、今ここにいるこのメンバー、2年前は総務だったんですよ。2年前からずっとこの話、総務の中で全庁的にという言葉がよく出るじゃないですか、ということで、みんなこの広報の在り方について、2年間、本当に総務でかなり議論してきて、全庁的にやりますと言っている。それで、各部署に行くと、こんな状態なんですよ。今、課長が対象者を言われたんだけど、1件しか今ないですよ、決算の中でね。これってやっぱり何も進んでいない、やっぱり広報を全然考えていないという証拠なんですよ。対象者を高齢者に絞っていますというんだったら納得するんですよ。逆に紙媒体のほうが効果がありますて、はっきり言うのであれば、僕はこの結果でいいと思う。そういうふうを考えていますから、観光のPRはこれでいいんだと。しかし、いや、ターゲットというものはもっと広い意味にしていると、市民向けに、いろんな人たちに向けてやるというのであれば、これではやっぱりまずいでしょうという結論になるわけですよ。そのあたり、対象を全体的に見ているんでしょう、年齢層も幅広く。その辺はいかがですか。

○古賀観光振興課長

バランスよく見ていかなければならないと思っています。ここの表には、これは予算が発生した分だけを書いておりますが、実は予算が発生しない、LINEとかインスタグラムでの発信は行っております。去年は42回行ってございまして、インスタグラムについては、観光振興の情報だけで7,500回の閲覧がありました。LINEについては、佐賀市全体の情報を流している中に観光情報も一緒に流したということで、これは約9万回の閲覧がございまして、徐々にそういった形でフォロワーというか、そういった方々も今から増やしていきながら進めているところでございます。

○川原田委員

私みたいなアナログ人間が言うのはおかしいかも分かんけれども、先ほど江頭委員言ったように、総務のとき、ほとんどが総務のメンバーやったかな。ずっと言って全庁的にPRの仕方移行していかんよということでやりましたけど、なかなか見えんもんな。だから、一番PRしなきゃいかん経済部がやっぱりある程度音頭を取ってやっていかんと。もうやむを得んことやけんさ、もうそういう流れになつとるけん、我々みたいについていきらん者は消えるかも分かんけどさ、頑張って歯を食いしばってついていこうて何だかんだしよつとやけんが、よかですか、本当に移行していかんんですよ。いや、今までのように旧態依然のことをやっとなつたて、だから、前の市長からあんな皮肉を書かれるやろうが。全然浸透していかんけん、どんなですか。あんだけ皮肉を書かれとつとですよ、佐賀市はつて。だから、我々も頑張りよつけん、やっぱり執行部もしっかりそのようにやっていかんと。部長。

○梅崎経済部長

議長言われるとおり、我々も経済部として、そこそこの部署でそういった観点からそれぞれでやっている——目的を持って、対象者を決めて、どんなやり方がベストかというふうな考えでもってやっていると思います。ただし、委員さん方がおっしゃられるとおり、佐賀市として広報をどういうふうにしてやっていくかというふうなことについては、さっき言われた総務委員会でも言ってきたと。また今度、経済産業委員会でも言いよるぞというふうな言葉ですので、その辺については、本体は今、総務部のほうで握っておりますので、その辺確認しながら——どこで音頭じゃなかですけど、統一的なやり方を市としてやっていくかということについては、私のほうからも各関係部署といいますか、総務企画あたりと、その辺についての、市としての広報のやり方、それから、経済部としても今後、今からバスセンターとか中央大通りで、いろんな大きなデータ、ビッグデータを取り扱うような形でありますので、データ管理とか、広報の媒体の在り方についてもやっぱりもう少し広い目で、言われるとおり、市としてやっていかなければならないと思っておりますので、経済部のほうから、そういった企画総務のほうには話をしていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○川原田委員

とにかくスピードアップよね、どんどんやっていかんと。とにかくまちなかを元気にする、PRというのは経済部が握とととやけんが、あんたたちにかかるとととやけんさ、そこはどんどん総務部のけつをたたいてでもやっていかんと。ぜひそれはお願いしますよ。おいたちが2年前からずっと言ってきたことやけんさ。要望しときます。

○宮崎副委員長

関連、確認なんですけど、逆に私たち総務で2年間言うてきて、秘書課から何か言うてきたりとかしとらんとですか。

○古賀経済部副部長兼観光振興課長

LINEは、もともとその当時、観光振興課しかやっていなかったというのがあって、その後、秘書課のほうに移りまして、今、かなりLINEのほうは秘書課のほうで積極的にやられていると思います。

○千綿委員長

いやいや、聞かれているのは、秘書課から戦略的な、例えば今後戦略を考えるときに、SNSはこういった利点があって、こういったデメリットがある、ホームページはこういった利点があって、こういうデメリットがある、動画だったらこういう利点があって、こういうデメリットがあるとかいう部分の方向性なり材料を示されて、広報の戦略的な情報を受けたことがあるかということです、今、副委員長が言われているのは。

○古賀経済部副部長兼観光振興課長

そういったものは今のところございません。

○千綿委員長

今、議会の広報広聴委員会では戦略的にやっていこうということで、今ここに野中宣明委員長いらっしゃいますが、そういった方向を決めているんですよ。SNSは動画、ホームページに誘導するための手段なんですよ。あとはホームページに誘導して、なるべく動画をつくっていきましょうねとかいう議論を今しているわけですよ。議会でさえそれをやっているのに、執行部は……、もう4年前かな、言っていますよ、正直。

(「経済部が悪かわけじゃなかばってん」と呼ぶ者あり)

まあ、あなたたちが悪かとじゃなかばってんが。

○野中宣明委員

この中の新聞、雑誌関係で見えますと、例えば佐賀新聞とかMOTEMOTEさが、これが2回ずつ上がっているんですよ、あとは単独なんですけど。例えばなんですけど、ほかの媒体との、いわゆる雑誌であればほかの雑誌とか新聞それぞれのほかの媒体、各社との比較検討をされてこうなっているのか、その辺の経緯を教えてもらっていいですか。

○古賀経済部副部長兼観光振興課長

こちらにありますのは、例えばMOTEMOTEさのシュガーロード特集とか、これは日本遺産になったときに特集記事を組まれている分で、その分の特集記事に載せる広告の分の協力依頼がありましたので、その分の協力をしたとか、そういった形になっております。そのほかにも雑誌とか情報誌ございますけれども、これは観光広報PR事業、ここではなくて、それぞれのイベントとか、それぞれの事業において、それぞれ見積り合わせをして選んでいるということでございますので、ここは確かに御指摘のとおり、MOTEMOTEさが2回ありますけれども、ぷらざとか、あと、よくあるのは子ども向けとかワイヤーママとか、そういったものを使う場合もございます。ここではちょっと出ていませんけれども、そういったものもたくさんほかにも媒体を使って広報しています。

○千綿委員長

ちょっと今の答弁で1つだけ。MOTEMOTEは特集記事を——当然、フリーペーパーは広告で成り立っていますので、企画を当然立てます。その企画に応じた広告を取っていきます。ということは、MOTEMOTE以外でも、例えば、ぷらざが観光の部分をしたら出すということ。いや、今の言い方だとそうじゃないですか。だから、向こうの企画に乗って広告を出しましたという話でしょう。ほかの媒体がこういう企画をしますんで広告を出してくださいと言ったら、出すということ。

○古賀経済部副部長兼観光振興課長

その企画が佐賀市の観光振興にとって有益なものであると判断した場合は、検討いたします。

○野中宣明委員

さっきからあっていますように、いずれにせよ、ターゲット層というか、行政情報を公

平に広くお伝えするというのが目的だと思いますので、そうすると購読者の皆様、閲覧される皆さんがどういった層がどこにあるのか、何を使ったら有効的なのかというのは戦略的にやるべきだと思います。例えばシュガーロードのPRであったり、佐賀市の観光PRであったり、佐賀新聞でいくと、地元の新聞であれば地元の方々がよく見られるということもありますでしょうけど、それを全国的にとか福岡を中心に発信するというのであれば、各誌の比較検討というのにも必要になってきます。そこら辺というのは、これは決算ですので昨年度はこういった傾向でされていらっしゃるんですけど、今年度また、その後ということに関しては、その辺の改善ということはないということではよろしいんですかね。そういう方向性で考えていく、検討していくということになるんですか。

○古賀経済部副部長兼観光振興課長

先ほどから御指摘を受けておりますように、媒体含めて、それからそういったネットを含めたSNSとか、そういったものも積極的に活用するなど、随時改善を図ってまいりたいと考えております。

○千綿委員長

ちなみに、MOTEMOTE2回載って、金額が高いほうなんですけど、これは見積り合わせをされたということなんですけど、ぷらざはこれより高かったということなのか、対象がぷらざには合わなくてMOTEMOTEが合ったということなのか、それはどっちですか。

○古賀経済部副部長兼観光振興課長

シュガーロードの場合、先ほど言いましたように、日本遺産になったときの特集記事でした。ひなまつりのほうにつきましても、先方から提案がありまして、こちらのほうで審議して、決定したということでございます。

○千綿委員長

合い見積もりを取ったとやろうもん、違うと、ぷらざは。

○古賀経済部副部長兼観光振興課長

これは合い見積りは取っていないということです。

○御厨委員

18番、インスタグラムです。これはインフルエンサーの人数と、どのようにしてインフルエンサーを選定したのか教えてください。

○観光振興課職員

インフルエンサーの人数については1万3,000人のフォロワーを持たれています。お一人です。そのインフルエンサーの選定については、その業者が契約をされているインスタグラマーの方ということで実施したところです。

○御厨委員

個人情報かもしれないけど、その方は佐賀市内に住んでいる方なんですか、それとそこでの謝金等は発生しているんでしょうか。

○観光振興課職員

実際このインスタグラマーがお住まいなのは福岡市、この情報発信自体が福岡方面への情報発信ということで実施しましたので、福岡市に在住のインスタグラマーを抱えている業者というところで契約したところですよ。

謝礼については、一定の謝礼が払われていることになると思います。

○御厨委員

それは、そしたらその期間だけ、この行事に関してだけ発信をされたんでしょうか、それとも継続的にずっとされるような内容なんですか。

○観光振興課職員

一定の期間の契約となっております。

○御厨委員

そのときの発信回数はわかりますか。

○観光振興課職員

ちょっと今手元に発信回数の数字は持っていません。

○千綿委員長

後から出してもらいますか。取りあえず後から出していただきます。

○御厨委員

分かったら回数を教えていただきたいんですけど、そのやり方はインフルエンサーに任せるんでしょうか、それともハッシュタグを活用するとか、その方が広告を有料で出すとか、やり方に対する……。

○観光振興課職員

やり方については、ある程度インスタグラマーの方にお任せして、一応フォロワーの方を中心にということでやったところですよ。

○千綿委員長

サガテレビに発注して動画を撮られていますよね。これって、経済部のどっかの動画もしくはプロモーションビデオのところでもいいんですけど、佐賀市のホームページにアップはされていますか。例えば、テレビに流すためには動画を撮るわけですね。その動画を撮るときには当然著作権の問題があります。著作権をクリアして、佐賀市でも使っていいよとなったら佐賀市のホームページに載せたほうがより効果的ですよ。テレビで1回流すより佐賀市のホームページに載せて、同じ動画を流すということはあるじゃないですか。そこら辺をされているのかどうか。

○古賀経済部副部長兼観光振興課長

これはCMだけに使って、ホームページとかには載せておりません。

○千綿委員長

もったいなかて思わん、正直。動画ばつくってもらっているわけでしょう、制作費とい

うのはこっちが出しているわけだから、著作権もこっちにくださいということを契約に入れて、そしてホームページに流せば、その倍の効果以上になるじゃないですか。そう思いませんか。いや、だから、そういうところが何でそこまで考え——あなたたち頭いいのに考えられんのかなというのが不思議でならんわけですよ。

インフルエンサーと言いますが、佐賀よかでしょうやったかな、あの人たちなんか何百万人というフォロワーいますよ。佐賀の人で、ユーチューバーで。釣りよかでしょうかな。いろいろあるので、それはもちろん福岡ターゲットなんで福岡のインスタグラマーは分からなくもないですが、フォロワーが1万人は大したことないですよ、正直言ったら。最低でもやっぱり10万人ぐらいいないと、なかなか大変だと思うので、そこら辺はちゃんと考慮して——データを集めて、広報戦略を立てないから、こういった感じで思いつきのように見えてしまいます、正直。だって、MOTEMOTEで2回して、ぷらざが全然入っとらんやんという素朴な疑問は湧いてきます、正直。向こうから提案があったから出したと、なら、ぷらざも提案はゼロですか、昨年。

○古賀副部長兼観光振興課長

あっていないです。

○千綿委員長

分かりました。そういうことで、ちょっと私があんまり言うとなれですから。

では、これでいいですかね。説明はよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それでは、経済部の方は退席されて結構です。

◎執行部退室

○千綿委員長

それでは、これで一応審査のほうは一定の区切りがつかしました。

次に、決算議案に対する委員長報告について、何かこれは絶対してくれというのが、要望がありましたら、ちょっと皆さんからぜひお願いしたいと思います。

○山口委員

附帯事項は出さないことになったじゃないですか。だから、まさに今あったような議論を何など言ってもらったほうがいいんじゃないでしょうか。

○千綿委員長

そうですね、決算議案の委員長報告がないというのは、あんまりないでしょうから。だから、そういったことで、あとほかには何か。

○山下伸二委員

特にさっきのやつなんかは。総務委員会のと時からずっと言ってきたことですから、この辺は委員長報告で報告するように——

○千綿委員長

そうですね。はい、分かりました。

なお、その他については、ほかにはよかですね。

(「なし」と呼ぶ者あり)

分かりました。

それでは、いただいた意見を基に準備を進めていきたいと思いますが、内容については正副委員長一任ということによろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

(「厳しく、今のを指摘」と呼ぶ者あり)

そうですね、ずっと言っていますからね。

(「総務のときこうやったと。総務のことを言わんばいかんでしょね」と呼ぶ者あり)

ただ、それは所管じゃなかけんね。

(「横断的じゃないから、自分らが委員会を回ってから、こういうのを指摘している。そこはもうちょっと、そういうところをきちっと書かないと、経済だけだとかわいそう」と呼ぶ者あり)

そうですね、確かにね。分かりました。そこも含めて一任いただきましたので、書いていきたいと思えます。

それでは、次回の委員会は9月13日月曜日の午前10時から、決算議案以外の議案審査となっていますので、よろしく申し上げます。

以上で本日の経済産業委員会を終了いたします。ありがとうございました。

令和 年 月 日

経済産業委員長 千 綿 正 明